
ひよこ

飯野こゆみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひよこ

【Nコード】

N8969F

【作者名】

飯野こゆみ

【あらすじ】

必死になって俺の後を追ってくるこいつが可愛くて、ついつい早足になってしまう。そんなある日の出来事。

「ちょっと待っててば。」

俺の後ろから百合の声が聞えた。

コンパスの違いがあるのだから、俺が普通に歩けばあいつが俺に追いつかないのは重々承知の上だ。

そのうちに今度はドカッという衝撃音。

角を曲がり損ねたのだろっ、どんだけ鈍くさいんだか。

ちよいと後ろを振り向き

「鈍癖ー奴だな」

って手を引き上げる。

予定だったのに。

誰だお前は！

しなやかに長身を屈めて百合の手をとる男一名。
声を大にして言いたい。

百合に触るんじゃないっ。

ただここは、会社のロビーだ。

そんな声を上げることなんて俺には出来なかった。

っておい、百合まで顔を赤くしてるんじゃないっ！

ついに俺はカッカツと靴を鳴らしながら2人に近づいた。

「なにやってるのお前。」

そうそれは目線は百合に向けたままだが、この男に向けた言葉。さりげなく背中中に手を回してるんじゃないえ。つてな具合に。

「愁ちゃ……係長。」

やっそこ視線を俺に向けたこいつ。

俺はこいつが拾い損ねたファイルの一部で頭に一発お見舞いした。ちゃんと着いて来い。

百合は言葉にしなくてもわかるんだろう。コクリと頷いた。

慌てて、その男にお辞儀をしてお礼を言う百合。すると、その男は

「あんまり無理しないでね、加藤さん。」
とにつこり微笑みやった。

一瞬呆けた後、不思議顔の百合に、男は自分の胸の辺りを指差し

「じゃあ」
と去っていった。

百合は言うつと自分の胸の辺りを確認して納得したようだ。
俺らの首からはスタッフカードなる身分証明書がぶら下がっている。

気障な野郎だぜ。

と思いながらも、少しだけコンパスを縮めてしまふ俺がいた。
スタフカードを下げていない所をみると社外の奴だろう。
もう2度と会うことはないと思うが。

それにしても百合の奴、他の男にあんな顔するなんて後で覚えとけよ。

俺の心の中に小さな野望が湧き上がったのだった。

その晩、あいつの部屋からは悲鳴が響き渡った。

「あーっ、そこ嫌だ。もう止めてってば、お願いだからもう勘弁してよ。私壊れちゃう……よ。」

「お前運動不足なんじゃねえの。ほれ、ここいいだろ？」
俺は加減する事なく、指先に力を込める。

「優しくしてくれるって言ったのに。」
段々と百合は涙目になってきた。

こんなことをしている最中に俺は優越感に浸ってしまう。

「お願いーもう駄目ーっ。」
百合の声が大きくなったその時。

突然ボタンと開いたドア。

そこには鬼のような顔をした姉貴が立っていた。

「あんた達、紛らわしいことしてんじゃないわよ。」

俺達の姿を確認して、大きなため息をついた。

「だってー愁ちゃんが……」

そう言っつて俺を責めるような顔で見上げる。

「あんたね、愛情表現間違ってるわよ。いつまでもそんなことしてると、本当に百合に愛想つかされちゃうんだからね。このシスコン。」

そうだよ、悪いかよ。

シスコン上等だよ。

俺は未だに掴んでる百合の細い足首をもう一度掴み直し。

結構な力をこめて、これが最後だと足裏を親指できゅーっと押した。

すぐさま聞えた百合の絶叫と俺の脳天に響く鈍い音。

姉貴がそばに落ちていた”よく効く足ツボ”の本を片手にさっきより更に凄い形相をして、もう一度振り被ろうとしているところだった。

小さな時からひよこのように俺の後ろをついてきた可愛い妹とあのいけ好かない野郎が接近するのは、このちよつと後の話だ。

が、あまりにもムカつくのでこの話をする事は無いと断言しておく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8969f/>

ひよこ

2010年10月19日13時42分発行